

九州在住の能楽師による能・狂言を 観てみませんか！

公益社団法人能楽協会九州支部は、
平成 11 年に設立されました。

現在、シテ方 5 流、ワキ方 2 流、囃子方 8 流、
狂言方 2 流、約 100 名の能楽師が所属しております。

今回の特別公演は、15 回を記念致しまして、
「五番立て」をテーマに、
能二番と狂言、舞囃子、居囃子、仕舞、連吟と
各流の競演をお楽しみ下さい。

本年より、従来の定例公演を
皆様により親しんでいただけますように、
公演名を「ほおずき能」とさせていただきます。

大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園 1-5 / TEL 092-715-2155



大濠公園能楽堂までのアクセス

- ・地下鉄大濠公園駅又は唐人町駅下車徒歩 7 分
- ・西鉄バス黒門バス停、又は大濠公園バス停下車徒歩 5 分

主催：公益社団法人能楽協会九州支部

後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会

【入場料（全席自由）】

一般 6,000 円 学生 2,000 円
(当 日 7,000 円) (当 日 2,500 円)

【入場券発売所】

■大濠公園能楽堂 TEL.092-715-2155
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-5

■チケットぴあ
0570-02-9999【Pコード437-736】
(ファミリーマートでも購入できます)

■ローソンチケット
0570-084-008【Lコード 86891】

公益社団法人能楽協会九州支部

第十五回記念

特別公演

半能

石橋

森本哲郎

舞囃子

半部

田村 恭

はしとみ

大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園 1-5

平成 26 年 8 月 24 日 (日) 午後 1 時開演 (正午開場)

ほおずき能

居囃子

翁

狩野 琇鵬

能

高砂

たかさご

八段之舞

鷹尾 章弘
鷹尾 維教

狂言

末広かり

すえひろ

中島 清幸



平成二十六年八月二十四日（日）午後一時始（正午開場）

大濠公園能楽堂

翁

居囃子（喜多流）
正佳
小鼓（羽鵠）幸
小鼓（頭取）幸
大夫狩野瑠鵬
千歳吉住講
小鼓（手巻）古田寛二郎
塩山良一
渡邊康喜
角明弘
栗谷幸雄
末武有
二笠井陸

高

能（観世流）

姉 今村嘉太郎
尉 鷹尾章弘
住吉明神鷹尾維教
友成宝生
閑
大鼓 白坂信行
太鼓 吉谷潔
八段之舞 神官坂苗融
神官 則久英志
所ノ者 野村万禄
小倉康太郎
今村一夫
井内政徳
今村嘉伸
武富昭坂口信男
久保誠一郎
森哲郎

砂

後見 山口剛一郎
多利島利之

◆五番立てとは？

能は、シテが演じる役柄によって「神、男、女、狂、鬼」の五つのジャンルに分けられます。
そして、この五種類を順番どおりに演能することを「五番立」といいます。

狂言（大蔵流）

末広かり

果報者 中島清幸
太郎冠者 篠原太一
傘走り 川邊宏貴
後見 河原康生

神（初番目物、脇能）

神が登場して世の中が良く治まっていることを祝福したり、社寺の縁起を語ることなどを内容とする能です。天下泰平、国土安穩の祝言が主題で、男神・女神・荒神などが主人公です。

男（二番目物、修羅能）

武者の修羅の姿を劇の中心とし、最期の場面や、死後の苦しみを見せる能です。多くは平家物語から題材を得ている武者の亡霊が主人公です。

女（三番目物、鬘物能）

伊勢物語や源氏物語に典拠したものが多く、優雅で美しい歌や舞を見せ場としている能です。多くは女性の亡霊の恋する想いが、成仏せずに漂っているという想定です。

狂（四番目物、雑能）

人間の悲しみや苦しみの極限状態を美しく詩的に展開する能です。他の四つのグループに入らない作品は皆ここに分類されています。

鬼（五番目物、切能）

鬼、天狗、妖精、龍神などが登場する能です。いずれも急テンポの激しい動きを見せ、全曲に太鼓が加わり、囃子も華やかで、演出も派手です。五番立の最後なので切能とも呼ばれ、一日の締めくくりとなります。

半能（観世流）

石橋

寂昭法師
師資十二段之式

赤獅子 山口剛一郎
赤獅子 久保誠一郎
赤獅子 今村一夫
白獅子 森本哲郎
大鼓 白坂保行
太鼓 田中達
小鼓 幸正佳
苗 相原一彦
川副憲一
鷹尾章弘
本土靖久
今村嘉伸
宮田嘉之
鷹尾祥史
武富昭
鷹尾維教

◆あらすじ

居囃子 翁
翁は「能にして能にあらず」ともいわれ、能が成立する以前の形を残した能です。この能に物語はなく、天下泰平・五穀豊穰・国土安穩を祈る儀式的な内容です。今回は謡と囃子にて上演致します。

能 高砂（初番目物）

高砂の浦を訪れた阿蘇の神主友成の前に老夫婦が現れます。二人は友成に、「相生の松」と呼ばれているいわれを語り、自分たちは高砂と住吉の「相生の松」の化身であると告げ、住吉での再会を約束し、沖へと姿を消して行きます。住吉にむかった友成の前に、住吉明神が姿を現し颯爽と舞い、平安な世を祝福します。今回は八段之舞の特殊演出となります。

狂言 末広かり

果報者が来客に末広かり（扇）を贈ろうと、太郎冠者を都へ買いに行かせます。ところが末広かりを知らない太郎冠者。声を掛けてきた男の巧みな言葉に、古傘を末広かりと信じ込んでしまいが。縁起物の末広かりを題材とする祝言的な狂言の代表作です。

仕舞 田村（二番目物）

坂上田村麻呂の霊が現れ、合戦の最中に千手観世音が出現し、その助勢によって、敵を滅ぼした有様を語ります。

仕舞 屋島（二番目物）

源義経の霊が、屋島の合戦にて活躍した場面を語りますが、夜が白々と明け始めると義経の姿は見えなくなってしまう。

仕舞 清経（二番目物）

平清経が、戦のはかなさを語り、もはやこれまでと舟の上で月を眺めて笛を吹き、念仏を唱えて入水した様子を語ります。

舞囃子 半部（三番目物）

夕顔の霊が、夕顔の花を介して出会った光源氏との昔を懐かしく回想しつつ舞い、夜明けとともに半部の中に姿を消します。

連吟 薪之段（四番目物）

老武士、常世は客人のため、大事にしていた秘蔵の鉢木を切って薪として焚き、精一杯のもてなしで心意気を見せます。能「鉢木」の間かせどころです。

能 石橋（五番目物）

現世と浄土をつなぐ石橋を訪れた寂昭法師の前に菩薩に仕える霊獣の獅子が現れ、紅白の牡丹に戯れて豪壮な舞を見せ千秋万歳を祝います。今回は師資十二段之式の特演出となります。